

第1章 はじめに

自動車産業は 550 万人近くの就業人口を抱えており、日本の経済成長を牽引するリーディング産業である。OEM メーカーが一台の自動車をつくるには、多様な部品が必要とされる。ティア 1、ティア 2、ティア 3 といった企業はサプライヤーとしてサプライチェーンを形成し、OEM メーカーの生産を支えている。ティア 2 以下の企業は、その多くが中堅・中小企業で構成されており、中堅・中小企業の活力が失われれば、日本の自動車産業はたちまち競争力を失ってしまうであろう。

本報告書では、以上の問題意識にたち、自動車産業の中堅・中小企業を支えるために何をなすべきなのかを調査・分析している。

第 2 章では、自動車産業の特徴を、特有のサプライヤー構造、下請取引等も含めて概観する。続く第 3 章では、中堅・中小企業が抱える課題を、ヒアリング調査で得た生の声とともに紹介する。第 4 章では、OEM メーカーやティア 1 サプライヤーをはじめ、国や自治体が支援できることを整理する。第 5 章では、中堅・中小企業自身ができる自助努力について考察する。

本調査の概要は、下記のとおりである。

- 期間：2023 年 12 月～2024 年 8 月まで
- 調査対象：中堅・中小企業 25 社
- 方法：ヒアリング調査

* 報告書の文中では、調査の中で集めた中堅・中小企業の声について、斜体・下線を付した。